



# シカゴ 企業戦士たち

## 第三回

今回は、JCCC創立時、会員としてご活躍頂きました荻野敏雄氏にご執筆頂きました。

日本の経済成長の最前線要員として、1966年2月にCHICAGO O'HARE空港に着きました。第一夜をLAKE SHOREのTHE DRAKE HOTELに投宿、翌朝窓に映る湖岸の光景に一瞬たじろいだことが今も鮮明に脳裏に浮かびます。「つらら」は上から下に水が落ちて氷になるのですが、その湖岸は波のしぶきが落ちて下から氷が上に伸びているのです。まさに絵でしかみていなかった北氷洋の景色でした。極寒の地の果てに来たという実感を味わったCHICAGOの第一歩でした。

丁度この年にJCCCが創設され、私も会員になり他の会社の駐在員に入会を呼びかけた思い出があります。1960年代の当時は小学校の先生でさえ日本という国が東洋にあることすら知らない米国社会でした。日本の電気製品を持っていながら日本にもカメラやラジオがあるのかと質問されることもあり、月に何度か16ミリの映写機を持って小学校などで日本の紹介に務めたこともありました。

電子部品セラミックコンデンサーの拡販の営業活動として駐在しましたが何分にも語学力が乏しく数々の失敗を重ねましたが、先方の解読能力に救われ販売契約に結びついたときの感激は次への勇気と希望を掻き立てました。毎日が新しいことを知りえる機会があり常に新鮮な気持ちで、それはそれは楽しい毎日でした。

しかしただ一つだけ不自由なことがありました。それは行動を制約される上に誠に重要であり「少ない給料」で、わずか月給\$450でした。冬はスキートの試合で(学生時代体育会スキー部でした)各地を転戦、夏はヨットと車のドラッグレース。お金はいくらあってもたりません。

月給\$450とはどのくらいの収入か現在は見当がつかないと思いますので蛇足ながら状況を述べます。当時イリノイ州の法で定める最低賃金は、時間あたり\$2.35で月給を時間に換算しますとなります。タバコ一箱25セント、ガソリン一ガロン25セント、昼食\$1.50、ワンベッドルーム家賃\$125といった物価でした。ちなみに現在の最低賃金は\$6.50でJCCC会員の皆様の平均収入は時間あたり約\$38位と聞いて

います。日本経済の成長もさることながら、いかに海外に駐在される皆様方のたゆまぬ努力と優れた経済活動のもたらした結果で、飛躍的な個人収入の向上をもたらしたものと思いきや知らされ敬服いたします。参考までに現在駐在の方々の収入はアメリカ国税庁の歳入の中で33%を占め上位10%のアメリカ国民の納税者に属します。かつて私が得ていたそれは最下層10%しか国庫に貢献することしか出来なかったわけですから。ここに40年間の顕著な日本駐在員の地位向上が証明されるのです。

そこで私は不足な軍資金を補うために、毎朝4時起きて豆腐をつくり日本食品店に配達し9時から通常どおり駐在員活動をしていました。3ヶ月もたった頃疲労が重なり入院治療を受ける羽目になり働いたお金を全部使い果たしてしまいました。丁度その頃カラーテレビが普及し始め、屋外アンテナの急需要があり早朝の仕事をやめてウイークエンドにアンテナつけの請負い仕事を始めました。この仕事は配線をするために屋根裏から寝室、物置まで家中をくまなく回りますのでアメリカの家の仕組みや置物から家庭などまで知ることが出来一石二鳥。又楽しい日々を送ることが出来ました。駐在員としての活動はもちろんそれ以外の行動から得た知識。そのときに得た友は、その後私の人生の中で最大の武器でもあり永住を決意したときの最初の協力者になって頂き今も友として交流を続けています。こんな経験こんな友なくして今現在の私は存在しません。

そんな青春を謳歌している時に父の訃報を受け葬儀参列希望を本社にお願いしたところ、社長の返答として“戦争に行ったものは葬式などでの帰国はさせません”とのつれない一報でした。この一件が起業・独立の口火となり幸を呼んでくれました。私はアメリカに戦争に来たのではありません。共存、共栄を信じ生存競争のなかで落伍者になりたくないが為に走り続けているのです。

その後日本人在住一世、駐在員の方々や日本からの移住者の足場になればとMAJCCの創立に協力しました。日本とかアメリカとかにこだわらず楽しく愉快的な駐在員生活を過ごされますように祈願しています。それがJCCCの繁栄につながることを信じています。

荻野敏雄



スキー全米大会にて